# beyerdynamic)

# **TG 1000** UHF デジタルワイヤレスシステム

取扱説明書

本製品を日本国内で使用する場合は、無線局免許が必要です。 詳しくは、総務省の電波利用ホームページをご参照ください。(http://www.tele.soumu.go.jp/)

# 安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の 注意事項を良くお読みください。

$\triangle$	<b>荷久 /</b> 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能 性が想定される内容を示しています。		
<b>電源プラグを</b> コンセントか ら抜く	万一、異常が起きたら 煙が出た、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはオーディオブレインズ(最終ページに記載)に修理をご依頼ください。		
<b>日</b> 指示	電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的(年1回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。		
	電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにし ない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱 したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはオーディオブレインズ (最終ページに記載)に交換をご依頼ください。		
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。		
<b>公</b> 禁止	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電 圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・ 感電の原因となります。		
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20cm以上) 離して設置する ラックなどに入れるときは、機器の天面から10以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。		
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。		
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。		
茶止	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。		

安全にお使いいただくために

	<b>荷久 /</b> 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能 性が想定される内容を示しています。
分解禁止	この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはオーディオブレインズ(最終ページに記載)にご依頼ください。 この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。
	注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。
	移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
電源プラグを コンセントか ら抜く	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコ ンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
	オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書を良く読み、電源を切り、説明にし たがって接続する また、接続は指定のコードを使用する
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
指示	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにし てください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
$\bigcirc$	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となることがあります。
禁止	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
<b>议</b> 禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはオーディオブレインズ(最終ページに記載)に ご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相 談ください。

beyerdynamic TG 1000 **3** 

14/01/21 14:10

## 安全にお使いいただくために

## 電池の取り扱いについて

本機のトランスミッターは、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、 以下の注意事項を必ず守ってください。

	<u>荷女</u> 一 乾電池に関する警告 一
<b>公</b> 禁止	乾電池は絶対に充電しない 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。
	<u>荷文</u> 上 電力 電池に関する警告
	電池を入れるときは、極性表示(プラスとマイナスの向き)に注意し、電池ケースに表示されて いる通りに正しく入れる 問意えるト電池の1731、注訳わたより、小災、はどや周囲を活得する原因トたるるトボホリます。

<b>山</b> 強制	
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電 池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が 身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。
$\bigcirc$	指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。

炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなるところで保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

	注意 電池に関する警告
$\bigcirc$	金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。 ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
禁止	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

**4** beyerdynamic TG 1000

禁止

第1章       はじめに       6         本機の概要       6         本製品の構成       6         本書の表記       6         商標志よび著作権に関して       7         設置上の注意       7         電源について       7         製品のお手入れ       7         ユーザー登録について       7         アンテーサ       7         第2章       TG 1000       UHF ダイバシティレシーバー         8       80名糸和       8         フロントパネル       7         第2章       TG 1000       UHF ダイバシティレシーバー         8       80名糸和       8         フロントパネル       8       7         リアバネル       8       7         リンテパーの酸筋汚法       9       9         レシーバーの酸電場所       10         レシーバーの酸電場所       10         レシーバーを電泳になのマイク入力に接続する方法       10         レシーバーの操作方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する (Name)       12         クイックスキャン (Quick Scan)       12         カジタルゲインを設定する (Digital Gain )       13         アジログ出しべいを設定する (CRCH)       13         アジログの電波数を設定する (Digital Gain )       13         アナログの地力 (LF センシンローを設定する (CR/CH)       15	安全にお使いいただくために 電池の取り扱いについて	2 4
本機の概要       6         本製品の構成       6         本書の表記       6         商標志び著作権に関して       7         設置上の注意       7         電源について       7         製品のあ手入れ       7         ユーザー登録について       7         アンテ・サービス       7         第2章 TG 1000 UHF ダイパシティレシーバー       8         各部の名称       8         フロントパネル       8         リアパネル       8         リアパテンサービス       7         アシテナの接続方法       9         リモートアンテナ接続と設置方法       9         設置と接続       10         レシーパーの設置場所       10         レシーパーの設置場所       10         レシーパーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法       10         レシーパーを電源に接続する方法       10         レシーパーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法       11         レシーパーを電源に接続する方法       11         レシーパーをキャン       12         名前を設定する (Name)       12         クイックスキャン       10         ジターのFLY・レタンネルを設定する (GR/CH )       13         アナログ出りレベルを表示する (GR/CH )       13         アナログの出りレシーパーを設定する (GR/CH )       13         アナログの出りレントレンを設定する (GR/CH )       14         電気の種類の設定 (Encryption )       15	第1章 はじめに	6
本製品の構成       6         本書の表記       6         商標および著作権に関して       7         設置上の注意       7         電源について       7         電源について       7         製品のお手入れ       7         ユーザー登録について       7         アンターサービス       7         アンターサービス       7         アンターサービス       7         アンターサービス       8         アントパネル       8         リアパネル       8         アンテナの接続方法       9         リモートアンテナ接続と設置方法       9         設置と接続       10         レシーパーの設置場所       10         リシーパーを電源に接続する方法       10         レシーパーを電源に接続する方法       10         レシーパーを電源に接続する方法       10         レシーパーを電源に接続する方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する(Name)       12         月波数グルーブノチャンネルを設定する(GR/CH)       13         手動で周波数を設定する(Ref Power)       14         電池の種類の設定 (Entry)       14         電池の種類の設定 (Entry)       14         電池の種類の設定 (Entry)       15         パワークカのシを説示する       21         ハットワーク内の会しシーパーの周波数を設定する       23         ファーム・ロッアパージョンを表示する	- 本機の概要	6
本書の表記       6         商標および著作権に関して	本製品の構成	6
商標および著作権に関して       7         設置上の注意       7         電源について       7         電源について       7         諸嘉について       7         製品のお手入れ       7         ユーザー登録について       7         アフターサービス       7         第2章 TG 1000 UHF ダイパシティレシーバー       8         各部の名称       8         フロントパネル       8         リアバテンテナ接続と設置方法       9         設置と接続       10         レシーバーの設備物所       10         ラックマウント       10         レシーバーの設置場所       10         レシーバーの参議場所       10         レシーバーのと客電源に接続する方法       10         レシーバーを電源に接続する方法       11         レシーバーを電源に接続する方法       12         名前を設定する (Name)       12         名前を設立する (Name)       12         クイックスキャン (Quick Scan)       12         周波数グルーブ/チャンネルを設定する (GR/CH)       13         手動で周波数を設定する (Name)       12         オークグーグスキャン (Quick Scan)       13         アナログ出カレベルを設定する (Analog Out)       14         トランスミッターのFF/でのを設定する (RF Power)       14         電売化機能の設定 (Battery)       14         唱売化機能の設定 (Battery)       14         電売の経験の設定 (Battery)	本書の表記	6
設置上の注意       7         電源について       7         製品のお手入れ       7         ユーザー登録について       7         アンターサービス       7         第2章 TG 1000 UHF ダイパシティレシーバー       8         客部の名称       8         フロントパネル       8         リアパネル       8         リアパネル       8         リアートアンテナ接続と設置方法       9         リモートアンテナ接続と設置方法       9         シーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法       10         レシーバーの設置場所       10         レシーバーを電源に接続する方法       10         レシーバーを電源に接続する方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設する (Name)       12         クイックスキャン (Quick Scan)       12         カズタルグインクスキャン (Quick Scan)       13         手動で周波数グルーブ/チャンネルを設定する (GR/CH )       13         デジタルグインを設定する (Digital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する (Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する (Analog Out)       14         電池の種類の設定 (Power Lock)       15         パワーク内の全しシーパーの周波数を設定する       21         ネットワーク内の全レシーパーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         レシーパーのファームウェアをアッブデートする       23         レシーパーのファームウェアをアッブデートする <td>商標および著作権に関して</td> <td>7</td>	商標および著作権に関して	7
電源について       7         粘露について       7         ユーザー登録について       7         アフターサービス       7         第2章 TG 1000 UHF ダイパシティレシーパー       8         各部の名称       8         フロントパネル       8         リアパネル       8         リアパネル       8         アンテナの接続方法       9         リモートアンテナ接続と設置方法       9         設と接続       10         レシーパーの設置場所       10         レシーパーの設置場所       10         レシーパーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法       10         レシーパーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する (Name)       12         クイックスキャン (Quick Scan)       12         周波数グルブインを設定する (Digital Gain)       13         デジタルゲインを設定する (Digital Gain)       13         デジタルゲインを設定する (Digital Gain)       14         市らの設定 (Encryption)       15         パワーロック機能の設定 (Power Lock)       15         アンクションメニューを使う       16         レシーパーを表示する       21         ネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         スットワーク内内のシーパーの周波数を設定する       22	設置上の注意	7
結露について	電源について	7
製品のお手入れ	結露について	7
ユーザー登録について	製品のお手入れ	7
アフターサービス       7         第2章 TG 1000 UHF ダイパシティレシーバー	ユーザー登録について	7
第2章 TG 1000 UHF ダイバシティレシーバー       8         各部の名称       8         フロントパネル       8         リアパネル       8         アンテナの接続方法       9         リモートアンテナ接続と設置方法       9         設置と接続       10         レシーバーの設置場所       10         ラックマウント       10         レシーバーを電源に接続する方法       10         レシーバーを電源に接続する方法       10         シンーバーを電源に接続する方法       11         レシーバーを電源に接続する方法       11         レシーバーを電源に接続する方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する (Name)       12         クイックスキャン (Quick Scan)       12         周波数グループ/チャンネルを設定する (GR/CH)       13         デジタルゲインを設定する (Digital Gain)       13         デジタルゲインを設定する (Colgital Gain)       13         アンログ出力レベルを設定する (Analog Out)       14         電池の種類の設定 (Encryption )       14         パワーロック機能の設定 (Encryption )       15         パワーロック機能の設定 (Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       23         レシーバーを表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーションマンクシュークを表示する	アフターサービス	7
各部の名称	第2章 TG 1000 UHF ダイバシティレシーバー	8
フロントパネル	各部の名称	8
リアバネル	フロントパネル	8
アンテナの接続方法       9         リモートアンテナ接続と設置方法       9         設置と接続       10         レシーバーの設置場所       10         ワックマウント       10         レシーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法10       レシーバーを電源に接続する方法         設定       11         レシーバーの操作方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する (Name)       12         クイックスキャン (Quick Scan)       12         周波数グループノチャンネルを設定する (GR/CH)       13         手動で周波数を設定する (Freq)       13         デジタルゲインを設定する (Name)       14         トランスミッターのRF/パワーを設定する (RF Power)       14         トランスミッタののRF/パワーを設定する (RF Power)       14         電号化機能の設定 (Encryption)       15         パワーロック機能の設定 (Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーパーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         マルレシーバーのファームウェアをアップデートする       24         ロリージョンコードを表示する       24         ロリンゴバージョンを表示する       24         モニタリング       24	リアパネル	8
リモートアンテナ接続と設置方法       9         設置と接続       10         レシーパーの設置場所       10         ラックマウント       10         レシーパーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法       10         レシーパーを電源に接続する方法       10         設定       11         レシーパーの操作方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する (Name)       12         月波数グループ/チャンネルを設定する (GR/CH )       13         手動で周波数を設定する (Preq)       13         デジタルゲインを設定する (Digital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する (Digital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する (Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する (RF Power)       14         電池の種類の設定 (Encryption )       15         パワーロック機能の設定 (Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーパーをネットワークに接続する       16         レシーパーのファームウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         出荷時の設定に戻す       23         レシーパーのファームウェアをアップデートする       23         トランスミッターのファームウェアをアップデートする       23         トランスミッターのファームウェアをアップデートする       24         ロージョントロールとインジケーター       25         マルチキャンネルの操作       (複数台のTG 1	アンテナの接続方法	9
設置と接続	リモートアンテナ接続と設置方法	9
レシーバーの設置場所	設置と接続	10
ラックマウント	レシーバーの設置場所	10
レシーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法10 レシーバーを電源に接続する方法	ラックマウント	10
レシーバーを電源に接続する方法	レシーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法	10
設定       11         レシーバーの操作方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する(Name)       12         クイックスキャン(Quick Scan)       12         周波数グループ/チャンネルを設定する(GR/CH)       13         手動で周波数を設定する(Freq)       13         デジタルゲインを設定する(CRCH)       13         デジタルゲインを設定する(CRCH)       13         アログ出力レベルを設定する(Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)       14         電池の種類の設定(Battery)       14         暗号化機能の設定(Encryption)       15         パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       24         同期       25         マルチチャンネルの操作       (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6 6系統アンテナスプリッター (別売アクセサリー)26       10         コントロールとインジケーター       26         取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称 <td>レシーバーを電源に接続する方法</td> <td>10</td>	レシーバーを電源に接続する方法	10
レシーバーの操作方法       11         メニュー画面を使う       12         名前を設定する(Name)       12         クイックスキャン(Quick Scan)       12         周波数グループ/チャンネルを設定する(GR/CH)       13         手動で周波数を設定する(Freq)       13         デジタルゲインを設定する(Chigital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する(Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)       14         電池の種類の設定(Battery)       14         暗号化機能の設定(Encryption)       15         パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする	設定	11
メニュー画面を使う	レシーバーの操作方法	11
名前を設定する(Name)       12         クイックスキャン(Quick Scan)       12         周波数グループ/チャンネルを設定する(GR/CH)       13         手動で周波数を設定する(Freq)       13         デジタルゲインを設定する(Digital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する(Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)       14         電池の種類の設定(Battery)       14         電池の種類の設定(Encryption)       15         パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         レシーバーをネットワークに接続する       17         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       24         同期       25         マルチチャンネルの操作       (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6 6系統アンテナスプリッター(別売アクセサリー) 26       コントロールとインジケーター       26         一般情報       26       取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28       各部の名称       28	メニュー画面を使う	12
クイックスキャン (Quick Scan)       12         周波数グループ/チャンネルを設定する (GR/CH)       13         手動で周波数を設定する (Freq)       13         デジタルゲインを設定する (Digital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する (Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する (RF Power)       14         電池の種類の設定 (Battery)       14         電池の種類の設定 (Encryption)       15         パワーロック機能の設定 (Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする24       1         リージョンコードを表示する       24         同期       25         マルチチャンネルの操作       (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6 6系統アンテナスプリッター       26         一般情報       26         取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	名前を設定する(Name)	12
周波数グループ/チャンネルを設定する(GR/CH)       13         手動で周波数を設定する(Freq)       13         デジタルゲインを設定する(Digital Gain)       13         アナログ出力レベルを設定する(Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)       14         電池の種類の設定(Battery)       14         暗号化機能の設定(Encryption)       15         パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       24         リージョンコードを表示する       24         同期       25         マルチチャンネルの操作 (複数台のTG 1000 レシーパーをカスケードして使用)25       WA-AS6 6系統アンテナスプリッター(別売アクセサリー)26         コントロールとインジケーター       26         取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	クイックスキャン(Quick Scan)	12
手動で周波数を設定する (Freq)13デジタルゲインを設定する (Digital Gain)13アナログ出力レベルを設定する (Analog Out)14トランスミッターのRFパワーを設定する (RF Power)14電池の種類の設定 (Battery)14暗号化機能の設定 (Encryption)15パワーロック機能の設定 (Power Lock)15ファンクションメニューを使う16レシーバーをネットワークに接続する16beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う19RFレベルを表示する21ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する22出荷時の設定に戻す23ファームウェアバージョンを表示する23レシーバーのファームウェアをアップデートする24リージョンコードを表示する24モニタリング24同期25マルチチャンネルの操作(複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25WA-AS6 6系統アンテナスプリッター (別売アクセサリー) 26コントロールとインジケーターコン数26取り付けとインストール27第3章TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター28各部の名称28	周波数グループ/チャンネルを設定する(GR/CH )	13
デジタルゲインを設定する (Digital Gain)13アナログ出力レベルを設定する (Analog Out)14トランスミッターのRFパワーを設定する (RF Power)14電池の種類の設定 (Battery)14暗号化機能の設定 (Encryption)15パワーロック機能の設定 (Power Lock)15ファンクションメニューを使う16レシーバーをネットワークに接続する16beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う19RFレベルを表示する21ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する22サポート情報を表示する23ファームウェアバージョンを表示する23ファームウェアバージョンを表示する23レシーバーのファームウェアをアップデートする24モニタリング24マルチチャンネルの操作(複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25WA-AS6 6系統アンテナスプリッター26取り付けとインストール27第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター28各部の名称28	手動で周波数を設定する(Freq)	13
アナログ出力レベルを設定する(Analog Out)       14         トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)       14         電池の種類の設定(Battery)       14         暗号化機能の設定(Encryption)       15         パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       24         リージョンコードを表示する       24         ロ期       25         マルチチャンネルの操作       24         「朝期       25         マルチチャンネルの操作       26         取り付けとインストール       27         第3章       TG 1000       UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	デジタルゲインを設定する(Digital Gain)	13
<ul> <li>トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)…14</li> <li>電池の種類の設定(Battery)</li></ul>	アナログ出力レベルを設定する(Analog Out)	14
電池の種類の設定(Battery)       14         暗号化機能の設定(Encryption)       15         パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         出荷時の設定に戻す       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       24         リージョンコードを表示する       24         可期       25         マルチチャンネルの操作       (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6 6系統アンテナスプリッター(別売アクセサリー)26       コントロールとインジケーター         コントロールとインジケーター       26         一般情報       26         取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)…	14
<ul> <li>暗号化機能の設定(Encryption)</li></ul>	電池の種類の設定(Battery)	14
パワーロック機能の設定(Power Lock)       15         ファンクションメニューを使う       16         レシーバーをネットワークに接続する       16         beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う       19         RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         出荷時の設定に戻す       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       23         トランスミッターのファームウェアをアップデートする       24         可期       25         マルチチャンネルの操作 (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6 6系統アンテナスプリッター(別売アクセサリー)26         コントロールとインジケーター       26         一般情報       26         取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28	暗号化機能の設定(Encryption )	15
ファンクションメニューを使う	パワーロック機能の設定(Power Lock)	15
レシーバーをネットワークに接続する	ファンクションメニューを使う	16
beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う19RFレベルを表示する21ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する22出荷時の設定に戻す22サポート情報を表示する23ファームウェアバージョンを表示する23レシーバーのファームウェアをアップデートする23トランスミッターのファームウェアをアップデートする24ロ期25マルチチャンネルの操作(複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25WA-AS6 6系統アンテナスプリッター (別売アクセサリー)2626コントロールとインジケーター26一般情報26取り付けとインストール27第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター28各部の名称28	レシーバーをネットワークに接続する	16
RFレベルを表示する       21         ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する       22         出荷時の設定に戻す       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       23         トランスミッターのファームウェアをアップデートする24       24         リージョンコードを表示する       24         モニタリング       24         マルチチャンネルの操作       25         マルチチャンネルの操作       (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6       6系統アンテナスプリッター       26         一般情報       26         取り付けとインストール       27         第3章       TG 1000       UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う	19
ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する	RFレベルを表示する	21
出荷時の設定に戻す       22         サポート情報を表示する       23         ファームウェアバージョンを表示する       23         レシーバーのファームウェアをアップデートする       23         トランスミッターのファームウェアをアップデートする24       1         リージョンコードを表示する       24         モニタリング       24         同期       25         マルチチャンネルの操作       (複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25         WA-AS6       6系統アンテナスプリッター (別売アクセサリー)26         コントロールとインジケーター       26         一般情報       26         取り付けとインストール       27         第3章       TG 1000       UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する	22
サボート情報を表示する	出荷時の設定に戻す	22
ファームウェアバーションを表示する	サボート情報を表示する	23
レシーバーのファームウェアをアップテートする	ファームウェアバージョンを表示する	23
トランスミッターのファームワェアをアッフテートする24 リージョンコードを表示する	レシーバーのファームウェアをアップテートする	23
<ul> <li>リーションコードを表示する</li></ul>	トランスミッターのファームウェアをアップデートする	24
<ul> <li>モニタリンク</li></ul>	リーションコードを表示する	24
同期	モニタリンク	24
<ul> <li>&lt; ルナナャンネルの採作         <ul> <li>(複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)25</li> <li>WA-AS6 6系統アンテナスプリッター (別売アクセサリー)26</li> <li>コントロールとインジケーター</li></ul></li></ul>	回期	25
(複数百の)G 1000 レンーハーをカスケートして使用)25         WA-AS6 6系統アンテナスプリッター (別売アクセサリー)26         コントロールとインジケーター	イルナナヤノイルの採作 (海粉ムのTC 1000 しょうが キキュケードレス体型)	2 5
WA-ASO       O未成アンテナスノリッター(別売アクセサリー)26         コントロールとインジケーター		25
コンドロールとインンケーター	wwa-Abo 0 A 統アノテナ人ノリッター ( 別元アクセサリー)	20 24
取り付けとインストール       20         取り付けとインストール       27         第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター       28         各部の名称       28	コノトロールC1 ノングーター	20 26
第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター	<sup>刃又旧</sup> 邗 取り付けとインストール	∠∪ 27
第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター		∠/
	第3章 TG 1000 UHF ハンドヘルドトランスミッター 各部の名称	28 28

マイクカプヤルの取り付け方法	29
電池をセットする	30
心心と ビット シンスミッターの 操作方法	30
同期/受信した周波数をトランスミッターに送信する方法	31
「「「」、文伯した同族気を「シンパミッチ」に送伯する方法	31
	51
第4章 TG 1000 UHF ベルトパックトランスミッター	32
各部の名称	32
電池をセットする	33
ベルトパックトランスミッターの操作方法	33
受信機で設定した周波数やその他のセッティングを	
トランスミッターに送信する方法	34
ゲインスイッチの使い方	34
ベルトクリップの取り付け方法	35
第5章 全てのトランスミッターに共通の注意	36
筆6章 オーディオレベルについて	37
トランスミッターのレベル設定	37
ベルトパックトランスミッターのゲインスイッチについて	37
レシーバーのレベル設定	37
デジタルゲイン	37
アナログ出力	37
システム全体による増幅度	37
ブロックダイヤグラム	37
ベルトパックトランスミッターのオーディオレベル	37
ハンドヘルドトランスミッターのオーディオレベル	37
レシーバーのオーディオレベル	37
	0,
第7章 別売アクセサリー	38
デジタルUHFダイバシティレシーバー用	38
デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター用	38
デジタルUHFベルトパックトランスミッター用	38
<b>佐0</b> 卉 (1)社	20
	39
ノングルURFダイハンデイレン一ハー	39 20
テンダルUHFハノトハルトトフノスミツダー	39
ノングルUTF(ハルトハックトフノスミッダー	39 40
WA-A30 0糸ボアノテナ人ノリッター	40
WA-AMIP アフテナ用アフノユニット	40

## 第1章 はじめに

このたびは、beyerdynamic TG 1000 UHFデジタルワイヤレスシ ステムをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。 ご使用になる前に、この取扱説明書を良くお読みになり、正しい取 り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますよ うお願い申し上げます。お読みになった後は、いつでも見られる所 に保管してください。

#### 本機の概要

TG 1000 は、ホワイトスペース(470-710MHz)および、日本 全国で使用可能な特定ラジオマイク専用帯域(710-714MHz)を 1台で全てカバーするワイドレンジ仕様です。

柔軟性に富むこのシステムは、プロオーディオ用、ツアー用、設備 用として最適です。

先進のデジタルワイヤレスシステムであるTG 1000 は、24ビッ ト周波数偏移変調(FSK) を採用しています。

トランスミッターとレシーバーは、UHF領域内でデジタル通信を 行っているため、高い信頼性と高音質を提供します。また、デジタ ル暗号化により、不正な傍聴を防ぎます。

トリプルプレイコーデックがTG 1000 システムの中核です。

コーデックは内蔵のソフトウェアで、デジタルデータ信号のエン コードやデコードを行います。

TG 1000 システムでは、標準的なコーデックの代わりにトリプル プレイコーデックと呼ばれる独自のソリューションが採用されてい ます。

このコーデックは、1.2msの低遅延、高いノイズ耐性、優れたオー ディオ特性を実現しています。

TG 1000 独自の「Genuine Guitar」テクノロジーは、クリアー なギターサウンドを提供します。また、20Hzまでの低周波数をカ バーしますので、TG 1000 はベースギターにも最適です。

動作範囲は、最大300メートル。また、 ダイナミックレンジは 122dBで優れたS/N比を実現しています。

ウェブサーバーのbeyerdynamic Chameleonソフトウェア が埋 め込まれているため、PC、ラップトップ、タブレット、スマートフォ ンなど、あらゆるデバイスとの通信が可能で、Windows、Mac、 Linux、iOS、Androidなどをベースとした各種オペレーティング システムと互換性があります。

レシーバーはカスケード接続が可能なので、追加のアンテナスプ リッターなしで最大24チャンネルのマルチチャンネルシステムを 実現できます。また、人間工学的に設計されたハンドヘルドトラン スミッターとベルトパックトランスミッターは使い勝手に優れ、迅 速な電池交換が可能です。

TG 1000 システムは、以下の機器で構成されています。

- デジタル2チャンネルUHFダイバシティレシーバー
- デジタルハンドヘルドトランスミッター(別売)
- デジタルベルトパックトランスミッター(別売)

#### 本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。 梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。 付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社 までご連絡ください。

#### デジタル2チャンネルUHFダイバシティレシーバー

x1

x1

- 本体
- 電源コード x1
- ホイップアンテナ x2
- 保証書
- 日本語取扱説明書(本書)x1

デジタルハンドヘルドトランスミッター(別売)

- 本体 x1
- 交換用カラーリング X5
- 単3形乾電池 x2

● 保証書

デジタルベルトパックトランスミッター(別売)

х1

х1

- 本体
- アンテナ x1
- ベルトクリップ x2
- 単3形乾電池 x2
- 保証書 x1

#### 本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン/端子などを「ESC ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を "Power Lock" のように "\_\_" で括って表記します。
- パソコンのディスプレー上に表示される文字を《OK》のように 《\_\_》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

#### ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載し ます。

#### メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

#### 注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、デー タが失われたりする可能性がある場合に記載します。

### 商標および著作権に関して

- beyerdynamicは、beyerdynamic GmbH Co. KGのドイツ、
   米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows 8、Windows 7、Windows Vista、Windows XP および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標で す。
- Mac および iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の 商標または登録商標です。

#### 結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。 結露したときは、約1~2時間放置してから電源を入れてお使いください。

#### 製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベ ンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を 傷める、または色落ちさせる原因となります。 各機器のお手入れを、ご覧ください。

#### 設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏0度~ 55 度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
  - 振動の多い場所 窓際などの直射日光が当たる場所 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所 極端に温度が低い場所 湿気の多い場所や風通しが悪い場所 ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでく ださい。
- ●本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスキットを使って、下図のように取り付けてください。なお、ラック内部では、本機の上に10以上のスペースを空けてください。



#### 電源について

- 付属の電源コードをAC IN端子に奥までしっかりと差し込んで ください。
- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

## アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所 定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してくだ さい。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無 償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなど ご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- ●保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載 内容によりオーディオブレインズ(最終ページに記載)が 修 理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはオーディオブレインズ(最終ページに記載)にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグを コンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはオーディオ ブレインズ(最終ページに記載)までご連絡ください。修理 を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。 なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害(録 音内容などの補償)の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番(beyerdynamic TG 1000)
  - 製造番号 (Serial No.)
  - 故障の症状(できるだけ詳しく)
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、最終ページをご参照ください。
- ●本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

#### 各部の名称

フロントパネル



- 1 19インチラック取り付け用 穴
- 2 アンテナ取り付け用穴
- 3 電源スイッチ
- 4 赤外線インタフェース
- 5 同期ボタン(チャンネル1、2用)
- 6 RFインジケーター(チャンネル1、2用)
- 7 ピークインジケーター付きAFインジケーター(チャンネル1、2用)
- 8 ディスプレー (チャンネル1 / 2用)

- 9 チャンネル選択ボタン(チャンネル1、2用)
- 10 ロータリースイッチ
- 11 ESCボタン (Escapeボタン)

19 イーサネット端子 (RJ45)

20 電源コネクター

- 12 ファンクションボタン
- 13 モニターボタン(チャンネル1、2用)
- 14 ヘッドホン端子(ステレオ標準ジャック)

リアパネル



- 15 アンテナ入力端子
- (Antenna A、Antenna B)(BNC端子) 16 アンテナ出力端子 (Antenna A、Antenna B)(BNC端子)
- 17 アナログ出力・TRS標準ジャック端子
- (チャンネル1、チャンネル2) 18 アナログ出力・XLRバランス端子
  - (チャンネル1、チャンネル2)

8 beyerdynamic TG 1000

14/01/21 14:10

## アンテナの接続方法

● 付属のアンテナをAおよびBアンテナ入力(15)に接続し、V字型になるように約60度の角度にセットします。



#### ΧŦ

ダイバシティシステムでは、必ず両方のアンテナを接続してく ださい。より良い信号を受信しているアンテナが自動的に選択 されます。

- ●別の接続方法として、レシーバーのフロントパネルにアンテナ を取り付けることもできます。その場合、WA-CKFアンテナフ ロント取り付けキットをお使いください。
- アンテナフロント取り付けキット(別売)のアンテナケーブル をアンテナ入力端子(15)に接続してください。



- フロントパネルのアンテナ取り付け用穴(2)の保護キャップ を外します。
- 付属のアダプターのナットとワッシャーを外します。
- アダプターをアンテナ取り付け用穴(2)に差し込み、アダプター のネジ山がフロントに出るようにします。
- ワッシャーとナットを使ってアダプターをしっかりと取り付けます。
- 必要に応じて、レシーバーを19インチラックに取り付けます。
- アンテナケーブルをアダプターのリア側に接続します。
- アンテナをアダプターのフロント側(BNCソケット)に接続し ます。
- アンテナをV字の角度になるようにセットします。



#### リモートアンテナ接続と設置方法

受信状態が良くない場合、リモートアンテナを使うことをお勧めし ます。

リモートアンテナには、パッシブタイプのWA-ATD指向性アンテ ナ(別売)をお勧めします。

- 受信アンテナを対応するアンテナ入力端子(15)に接続し、ト ランスミッターを使用する領域内で、アンテナをレシーバーの 右と左に設置します。必要に応じて、ダイバシティの受信状態 が改善されるようにアンテナの位置を変えてみてください。
- 2. 2つの受信アンテナは、少なくとも1メートル離してください。
- 送信アンテナと受信アンテナは、少なくとも3メートル離して ください。これは、オーバーロードおよび異なるチャンネル間 の干渉を避けるためです。 したがって、特にマルチチャンネルシステムでは、アンテナを 高い位置に設置することをお勧めします。
- トランスミッターの使用領域がステージより広い場合、アンテナを天井に垂直方向にマウントすることができます。
   2つの受信アンテナの距離は、使用領域全体の約半分としてください。
- 受信アンテナは、トランスミッターと同じエリアに設置してく ださい。

メモ

- 干渉を避けるために、デジタルコントロールされる機器の近く にアンテナを設置しないでください。
- 金属製の物体(強化コンクリートの壁や柱を含む)から少なく とも50cm離してください。
- アンテナ入力部のアンテナケーブルを曲げないでください。また、ケーブルに無理な力が加わっていないことを確認してください。

#### 設置と接続

レシーバーの設置場所

- レシーバーは、送信が行われる場所の中に設置してください。
- レシーバーは、なるべくトランスミッターの近くに設置してく ださい。トランスミッターとレシーバー間に何もないのが理想 的です。
- レシーバーをデジタル制御機器の近くに設置しないでください。

ラックマウント



- ●レシーバーの左右に19インチラック取り付け用穴(1)が用意 されています。
- レシーバーを19インチラックに入れ、4本のビスで取り付けます(ビスは付属していません)。

注意

- レシーバーを他の機器と一緒に19インチラックにマウントして 使う場合、周囲の温度、機械的ストレス、電位などの状態が単 独で使う場合と異なることがあります。
- ラックに複数台のレシーバーを取り付ける場合、レシーバー間の熱の影響を避けるために、10分のスペースを空けるか、あるいは換気を十分に行ってください。
- ラック内の温度が 39ページ「第8章 仕様」 に規定されて いる動作温度の範囲を超えないようにしてください。
- ラックに多くの機器をマウントする場合、上部が重くなると転 倒の危険がありますので、ご注意ください。
- 電源を接続するとき、背面に表示されている電源仕様を確認してください。また回路の過負荷を避けるために、必要に応じて 過電流保護回路を入れてください。

レシーバーをミキサーなどのマイク入力に接続する方法



- レシーバーからはバランスのオーディオ信号が出力されます。
- チャンネル1または2の アナログ出力・TRS標準ジャック端子 (17) またはアナログ出力・XLRバランス端子 (18) を、ミキサー やアンプのバランスマイク入力端子に接続します。
- 各チャンネルのメニュー設定の中で、オーディオ出力のレベル をアンプや、ミキサーの入力レベルに合わせます。詳しくは、 12ページ「メニュー画面を使う」をご覧ください。

レシーバーを電源に接続する方法



● ご使用の電源コンセントの電圧とレシーバーの電圧仕様が一致していることを確認します。

#### 注意

レシーバーを仕様と異なる電圧の電源コンセントに接続した場 合、機器を破損する可能性があります。

● 付属の電源コードを使って、電源コネクター(20)と電源コン セントを接続します。

設定

#### レシーバーの操作方法



●レシーバーの設置と接続を終えたら、電源スイッチ(3)を使って電源を入れます。

#### ホーム画面

ディスプレー(8)に表示される各チャンネル(1、2)のホーム 画面を右に示します。

選択中の周波数でトランスミッターからの信号を受信すると、ディ スプレーの背景が黒くなります。

信号を受信していないと、ディスプレーの背景が白くなります。こ の場合、オーディオ信号はありません。

#### トランスミッターからの信号がある場合の表示



トランスミッターからの信号がない場合の表示

Name		Name	
xxx.xxxMHz		xxx.xxxMHz	
GR/CH/	(†)	GR/CH/	(†)
No Tx	x dB	Enc Err	x dB

● 初期状態では、以下の情報が表示されます。

	表示内容		
1行目	選択中の名前(アーティスト名など)		
2行目	選択中の周波数		
3行目	選択中の周波数グループとチャンネル		
4行目	トランスミッターの信号 を受信しているとき トランスミッターの信号 がないとき	電池状況、トランスミッ ターのタイプ、マイクカプ セル、ゲイン(dB) No TxまたはEnc Err	

- ●レシーバーのフロントパネルの全ボタンが白く点灯します。ボ タンを押したとき、あるいはオンの状態にしたとき、点灯色が 赤くなります。
- レシーバーの電源をオフにするには、電源スイッチ(3)を使います。ボタンの点灯が消えます。

#### ホーム画面に表示されるアイコンと意味

- 🖉 :ハンドヘルドトランスミッターを使用中です。
- :ベルトパックトランスミッターを使用中です。
- ∅ :パワーロック機能が動作中です。
  - :暗号化機能が動作中です。

a

- Image: RFパワー が "Standard" に設定されています。
- 🌃 🛛 :RFパワー が "**High"** に設定されています。

#### メニュー画面を使う



- レシーバー側では、チャンネル1、2それぞれ別個のメニューで、
   名前、周波数グループ、周波数、デジタルゲインなどを設定することができます。
- チャンネル選択ボタン(9)を使って、チャンネル1(Q1)ま たはチャンネル2(Q2)を選択します。
- チャンネル選択ボタン(9)が赤く点灯し、ディスプレー(8) が変わったら、ロータリースイッチ(10)を回してメニュー項 目を選択し、ロータリースイッチ(10)を押してサブメニュー に入り、設定を行うことができます。 ロータリースイッチ(10)を押して設定を確定すると、"OK" がディスプレーに表示されます。
- メニューまたはサブメニュー内では、ESC ボタン(9)を使って、 入力データを取り消すことができます。入力データは適用され ず、元のデータが表示されます。

#### 注意

- ロータリースイッチ(10) をしばらく操作しないでいると、メ ニュー画面が自動的に消え、ディスプレー(8) がホーム画面 に戻ります。ロータリースイッチ(10) を押して、確定しない 設定は保存されません。
- メニュー画面の右側に、設定対象のチャンネル("1"または"2") が表示されます。

#### メモ

通信中のトランスミッターと同期されているチャンネルで、再 度同期が必要な設定を変更した場合、変更されたチャンネルの 同期ボタン(5)が赤く点灯します。

以下の設定画面があります。

#### 名前を設定する(Name)

トランスミッターの名前を設定します。

- 1. ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Name Sample"項目を 選択します。
  - Name: Sample
     Quick Scan
- ロータリースイッチ(10)を押して、"Name Sample" 画面を 表示します。

1

- 4. ロータリースイッチ(10)を回して、文字を選択します。
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、設定した文字を確定しま す。

#### クイックスキャン(Quick Scan)

対応するリージョンコード(A、B、C、D、E)に応じて予め決め られたグループから、チャンネルや周波数を選択します。

- ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Quick Scan"項目を選 択します。
  - ▲ Name: Sample
  - Quick Scan
  - ▼ GR/CH
- ロータリースイッチ(10)を押して、"Quick Scan"サブメ ニュー画面の "Search Group"項目を表示します。 画面下部にグループ内にいくつのチャンネルが含まれている かが表示されます。

#### • Search Group: xx

#### xx Channels (xxx - xxx MHz)

- ロータリースイッチ(10)を回して、スキャンを開始するグループを選択します。
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、選択したグループを確定 します。

**"Quick Scan"** サブメニュー画面に **"Start Channel"** 項目が 表示されます。

画面下部に選択したチャンネルの周波数が表示されます。

#### • Start Channel: xx

1

1

1

Freq: xxx.xxx MHz

- **6.** ロータリースイッチ(10)を回して、選択したグループからス キャンを開始するチャンネルを選択します。
- 7. ロータリースイッチ(10)を押して、選択したチャンネルを確 定します。

**"Quick Scan"** サブメニュー画面に **"Scanning"** が表示され、 スキャンが開始されます。

スキャンが終わると次の空きチャンネルが自動的に選択され、 画面に選択されたチャンネルとその周波数が表示されます。

#### Channel xx selected.

Frequency xxx.xxx MHz

#### 周波数グループ/チャンネルを設定する(GR/CH )

対応するリージョンコード(A、B、C、D、E)に応じて予め決められたグループから、チャンネルと周波数を選択します。

- ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- **2.** ロータリースイッチ(10)を回して、"GR/CH"項目を選択します。
  - ▲ Quick Scan
  - GR/CH: xx / xx
  - ▼ Freq: xxx.xxxMHz
- **3.** ロータリースイッチ(10)を押して、"GR/CH" 画面を表示します。

画面下部にグループ内にいくつのチャンネルが含まれている かが表示されます。

1

1

1

#### • GR/CH: xx / xx

#### xx Channels (xxx - xxx MHz)

- **4.** ロータリースイッチ(10)を回して、周波数グループを選択します。
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、選択した周波数グループ を確定します。

"GR/CH" 画面がチャンネル選択状態になります。 画面下部に選択したチャンネルの周波数が表示されます。

#### • GR/CH: xx / xx

#### Freq: xxx.xxx MHz

- **6.** ロータリースイッチ (10) を回して、選択したグループからチャンネルを選択します。
- 7. ロータリースイッチ(10)を押して、選択したチャンネルを確 定します。

#### 手動で周波数を設定する(Freq)

470MHz ~ 714MHzの間 の周波数を手動で選択することができ ます。また、グループ内に含まれていない周波数を選択します。 手動で周波数を選択すると、ホーム画面内に "**GR/CH --/--**" と表示 されます。

 ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。

<sup>2.</sup> ロータリースイッチ (10) を回して、"Freq"項目を選択します。



- 3. ロータリースイッチ (10) を押して、"Freq" 画面を表示します。
- **4.** ロータリースイッチ(10)を回して、周波数の最初の3つの数 字を選択します。
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、選択した周波数グループ を確定します。

デジタルゲインを設定する(Digital Gain)

本機のオーディオ出力のレベルを、アンプやミキサーの入力レベル にデジタル的に適合させることができます。 マイクが拾う信号レベルが非常に低い場合に、この画面で増幅度を 設定します。

- ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Digital Gain"項目を選 択します。

1

#### ▲ Freq: xxx.xxxMHz

- Digital Gain: x dB
- ▼ Analog Out: x dB
- ロータリースイッチ(10)を押して、"Digital Gain" 画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、増幅度を設定します。
   設定範囲:0dB~+30dB(3dBステップ)
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、設定した増幅度の値を確 定します。

#### アナログ出力レベルを設定する(Analog Out)

本機のオーディオ出力のレベルを、アンプやミキサーの入力レベル にアナログ的に適合させることができます。

ベルトパックトランスミッターに楽器を直接接続するような場合 に、この画面で増幅度を設定します。

- ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Analog Out"項目を選 択します。



- **3.** ロータリースイッチ(10)を押して、"Analog Out" 画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、増幅度を設定します。
   設定範囲: "0dB"、"+12dB"
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、設定した増幅度の値を確 定します。

トランスミッターのRFパワーを設定する(RF Power)

トランスミッターのRFパワーを設定します。

トランスミッターが受信アンテナに近い場合やマルチチャンネル システムにおいて相互変調による干渉を避ける場合は"Standard" に、トランスミッターと受信アンテナ間の距離が長い場合などで問 題がある場合は"High"に設定してください。

- ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- **2.** ロータリースイッチ(10)を回して、"**RF Power**"項目を選択 します。
  - ▲ Analog Out: x dB
  - RF Power: High OR Standard
  - Battery: Alkaline
- **3.** ロータリースイッチ (10) を押して、"**RF Power**" 画面を表示 します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、RFパワーを設定します。
   選択肢: "High"、"Standard"
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、設定したRFパワーを確 定します。

メモ

- ホーム画面にRFパワーの設定状況が表示されます。
  - "Standard" :" 🕶 " アイコンが表示されます。
  - "High" : " 🜆 " アイコンが表示されます。

#### 電池の種類の設定(Battery)

トランスミッターに使用する電池の種類を設定します。

- ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Battery"項目を選択します。

▲ RF Power: High

Battery: Alkaline OR NiMH

▼ Encryption: On

1

- 3. ロータリースイッチ(10)を押して、"Battery" 画面を表示し ます。
- 4. ロータリースイッチ(10)を回して、トランスミッターに使用 する電池の種類を設定します。

選択肢:"Alkaline"、"NiMH"

5. ロータリースイッチ(10)を押して、設定した電池の種類を確 定します。

#### 暗号化機能の設定(Encryption )

オーディオデータの暗号化機能を有効にするかどうかを選択しま す。

暗号化は、不正な傍聴を防ぐために使われます。

- 1. ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- 2. ロータリースイッチ(10)を回して、"Encryption"項目を選 択します。

V FOWEI LOCK. OII
-------------------

- 3. ロータリースイッチ(10)を押して、"Encryption" 画面を表 示します。
- 4. ロータリースイッチ(10)を回して、オーディオデータの暗号 化の有無を設定します。

選択肢: "On" (有効)、"Off" (無効)

5. ロータリースイッチ(10)を押して、暗号化の設定を確定しま す。

#### メモ

暗号化機能を有効(オン)にしたとき、レシーバーはコードを 発生します。相互のコミュニケーションを行うために、レシー バーとトランスミッターは同じコードでなければなりません。 したがって、レシーバーとトランスミッターを同期する必要が あります。詳しくは、25ページ「同期」をご覧ください。

#### 注意

- 暗号化機能を有効(オフ)にするたびに新しいコードが発生さ れるので、これをトランスミッターに送信しなければなりませ he
- トランスミッターとレシーバーが同じコードでない場合、ある いは同じコードを持たないレシーバーが暗号化されたトランス ミッターを受信しようとすると、レシーバーのディスプレーに "Enc Err" が表示され、ディスプレーが白くなります。
- 暗号化機能が有効なとき、" 🗒"アイコンが表示されます。

Name xxx.xxxMHz GR/CH/ (†) Enc Err x dB	Name xxx.xxxMHz GR/CH/	(†) x dB
--	------------------------------	-------------

```
[暗号化機能 "On" 状態表示] [暗号化機能 "On" 状態表示]
```

パワーロック機能の設定(Power Lock)

パワーロック機能を使用して、トランスミッターの電源をロックす ることができす。

- 1. ロータリースイッチ(10)を押して、ディスプレー(8)にメ ニュー画面を表示します。
- 2. ロータリースイッチ(10)を回して、"Power Lock"項目を選 択します。

1

▲ Encrption: On • Power Lock: On OR Off

- 3. ロータリースイッチ(10)を押して、"Power Lock" 画面を表 示します。
- 4. ロータリースイッチ(10)を回して、パワーロック機能のオン /オフを設定します。

選択肢: "On" (有効)、"Off" (無効)

5. ロータリースイッチ(10)を押して、パワーロック機能の設定 を確定します。

#### メモ

• パワーロック機能をオンにすると、ホーム画面に" 🜌" アイコン が表示されます。



[ホーム画面・パワーロック機能 "On" 状態表示]

• 選択を確定した後、トランスミッターを再度同期する必要があ ります。詳しくは、25ページ「同期」をご覧ください。

トランスミッターでパワーロック機能をオフにするには トランスミッターのパワーロック機能がオンのとき、以下の方法で トランスミッターの電源をオフにすることができます。

- 1. トランスミッターの電源ボタンを押します。 トランスミッターのディスプレーに "Power Locked" が表示 されます。
- **2.** "Power Locked" 表示中に、再度電源ボタンを押します。 トランスミッターのディスプレーに "Off" が表示され、パワー ロック機能がオフになります。

(01)





 レシーバー上からは、レシーバーがネットワーク内で動作中の 設定を行う、またはトランスミッターのファームウェアアップ デートを行うことができます。また、サポートに関する情報を 表示することも可能です。

以下の機能を設定するには、レシーバーがイーサネット端子(19) 経由でネットワークに接続されている必要があります。

参照ページ
→ 16ページ
→ 19ページ
→ 21ページ
→ 22ページ
→ 22ページ
→ 23ページ
→ 23ページ
→ 23ページ

- ファンクションボタン(12)を押します。
- ファンクションボタン(12)が赤く点灯し、ディスプレー(8) が変わったら、ロータリースイッチ(10)を回してファンクショ ンメニューの項目を選択し、ロータリースイッチ(10)を押し て各設定画面を表示し、各機能の設定を行います。
   各設定では、ロータリースイッチ(10)を押して設定を確定す ると、"OK"がディスプレーに表示されます。
- ESC ボタン(11)を使ってメニュー内での入力データを取り消 すことができます。入力データは適用されず、元の設定に戻り ます。

#### 注意

- ロータリースイッチ(10)をしばらく操作しないでいると、ファンクションメニュー画面が自動的に消え、ホーム画面(8)に戻ります。
- ロータリースイッチ(10)を押して、確定しない設定は保存されません。
- 個々のメニューでは、画面右側にファンクションメニューを示 す "f" が表示されます。

レシーバーをネットワークに接続する





- レシーバーをネットワークに接続するときは、カテゴリー 5ケーブルを使って、イーサネット端子(19)経由で接続してから、レシーバーの電源を入れてください。
- ワイヤレスデバイス(タブレットPC、iPhone、iPadなど)を 使うためには、Wi-Fiネットワークが必要です。
   DHCPサーバーを使って、レシーバーをスイッチやルーターに 接続することができます。
   ネットワーク内で有効なDHCPサーバーが1つだけであることを確認してください。
   ルーターがWi-Fiネットワーク内のアクセスポイントとして動作 している場合、レシーバーをWi-Fiデバイスにアクセスできます。

以下の操作で、レシーバー上でネットワーク関連の設定を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Network"項目を選択 します。

Network f
-----------

- ロータリースイッチ(10)を押して、"Network"メニュー画 面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を使って、ネットワーク接続の各設 定項目を設定します。

IPアドレスの設定状況を表示する

"Network" メニュー画面の "IP" 項目では、レシーバーに割り当て られたIPアドレスを表示し、必要であればこれを変更することがで きます。



手動でIPアドレスを割り当てるには:

- "Network"メニュー画面の "Mode" 項目を "Manual" に設定 します。(→ 18ページ「IPアドレスの設定モードを設定す る」)
- **2.** "Network" メニュー画面を表示中にロータリースイッチ(10) を回して、"IP" 項目を選択します。
- 3. ロータリースイッチ(10)を押して、設定項目選択状態にしま す。
- ロータリースイッチ(10)を回して、IPアドレスの最初のバイトを設定します。
   設定範囲:0~255
- ロータリースイッチ(10)を押して、IPアドレスの最初のバイト設定を確定します。 次のバイトにカーソルが進みます。
- **6.** ロータリースイッチ(10)を使って、4つのバイト全てを設定 および確定します。
- 7. IPアドレスの設定を終えたら、ロータリースイッチ(10)を押 してIPアドレスを確定します。

サブネットマスクの設定状況を表示する

"Network" メニュー画面の "Mask" 項目では、レシーバーに割り 当てられたネットマスクを表示し、必要に応じて変更することがで きます。



ネットマスクは、レシーバーに設定されているIPアドレスから本機 が属するネットワーク構成を構築するためのマスク値です(自身の ネットワークは、ルーターを通じて他のネットワークへの通信も可 能となります)。

ネットマスクはIPアドレスをネットワークアドレス部とホストア ドレス部に分離するもので、ネットワークアドレス部は同じネット ワーク内に属する全ての機器が同じ値を割り当てられなければなり ませんが、ホストアドレス部は全ての機器が異なる番号を割り当て られなければなりません。

手動でIPアドレスを割り当てるには:

- "Network"メニュー画面の "Mode" 項目を "Manual" に設定 します。(→ 18ページ「IPアドレスの設定モードを設定す る」)
- 2. "Network" メニュー画面を表示中にロータリースイッチ(10) を回して、"Mask"項目を選択します。
- 3. ロータリースイッチ(10)を押して、設定項目選択状態にしま す。
- ロータリースイッチ(10)を回して、サブネットマスクIの最初のバイトを設定します。
   設定範囲:0~255
- ロータリースイッチ(10)を押して、サブネットマスクの最初のバイト設定を確定します。 次のバイトにカーソルが進みます。
- 6. ロータリースイッチ(10)を使って、4つのバイト全てを設定 および確定します。
- サブネットマスクの設定を終えたら、ロータリースイッチ(10) を押してサブネットマスクを確定します。

f

#### IP アドレスの設定モードを設定する

- 1. "Network" メニュー画面を表示中にロータリースイッチ(10) を回して、"Mode"項目を選択します。
  - ▲ Mask: 0. 0. 0. 0.
  - Mode: DHCP OR Manual
  - ▼ Device ID: xx
- **2.** ロータリースイッチ(10)を押して、設定項目選択状態にします。
- ロータリースイッチ(10)を回して、設定項目を選択します。
   選択肢: "DHCP"、"Manual"
- ロータリースイッチ(10)を押して、IPアドレスの設定モード を確定します。

ネットワーク内では、DHCPサーバーを使ってスイッチとルーター の両方を使うことができます。

IPアドレスを正しく割り当てるために、ネットワーク内ではDHCP が1つだけ有効であるようにしてください。

ルーターをDHCPサーバーと一緒に使う場合、 "**DHCP**" を選択しま す。

手動で設定を行うことなく、既存のネットワークにレシーバーを自 動統合することができます。

レシーバーをスタートすると、IPアドレス、ネットマスク、ゲー トウェイ、DNSサーバー、(必要であれば)WINSサーバーを、 DHCPサーバーから取得することができます。

自動割り当てでは、IPアドレスの範囲はDHCPサーバー上で決め られています。この領域は、DHCPサーバーによってルーター内で 設定されます。

アドレスがDHCPクライアントに割り当てられる範囲外の場合、 DHCPサーバー(ルーター)内で「Lease time(リース期間)」 として定義される状態になります。これは、IPアドレスとMACア ドレス間の割り当ての持続期間を決めるものです。

アクティブなDHCPサーバーがない状態でスイッチやルーターを 使う場合、"**Manual**"を選択してください。

**"Network"** 画面の **"IP"** 項目で、IPアドレスを手動で設定することができます。



Network Mode: DHCP



Network Mode: Manual

18 beyerdynamic TG 1000

#### デバイスIDを設定する

 "Network" メニュー画面を表示中にロータリースイッチ(0) を回して、"Device" 項目を選択します。

f

f

- ▲ Mode: DHCP
- Device ID: xx
- ▼ Mac: 00:04:A3:3C:FE:93
- **2.** ロータリースイッチ(10)を押して、設定項目選択状態にします。
- **3.** ロータリースイッチ(10)を押して、設定項目選択状態にしま す。
- ロータリースイッチ(10)を回して、設定項目を選択します。
   選択範囲: "1" ~ "99"
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、デバイスIDを確定します。

#### メモ

- デバイスIDは、beyerdynamic Chameleonソフトウェア内でのデバイスの割り当てを決めるものです。beyerdynamic Cahmeleonソフトウェアの基本画面の中では、各デバイスがデバイスID番号順にラックに収納された状態で表示されます。
- デバイスIDの変更は、レシーバー上でのみ可能です。同じデバイスIDを2回割り当てないようにしてください。

MACアドレスを表示する

**"Network"** メニュー画面を表示中にロータリースイッチ(10)を回して、"**Mac"**項目を選択します。

MAC (Media Access Control) アドレスを確認します。

#### ▲ Device ID: xx ● Mac: 00:04:A3:3C:FE:93

メモ

MACアドレスはレシーバー内に保存されていて、変更すること ができません。

各レシーバーは、異なるMACアドレスを持っています。つまり、 DHCPサーバーを持つネットワーク内で、各レシーバーが異な るIPアドレスを持っているということになります。

beyerdynamic Chameleonソフトウェアを使う

 To 1000
 Deveroynamic

 To 1000
 Deveroynamic

 To 1000 Chameleon Software
 V1000

 Tra 1000 Chameleon Software
 V1000

 Prepare year
 Clear Log
 Waking Tell

 Prepare year
 Clear Log
 Waking Tell

 A = 00
 Ch2
 Prepare year

 Prepare year
 Clear Log
 Waking Tell

 A = 00
 Ch2
 Prepare year
 Waking Tell

 A = 00
 Ch2
 A = 00
 Ch2
 Prepare year

 A = 00
 Ch3
 A = 00
 Ch2
 Prepare year

 A = 00
 Ch3
 A = 00
 Ch2
 Prepare year

 A = 00
 Ch3
 A = 00
 Ch2
 Prepare year

 A = 00
 Ch3
 A = 00
 Ch3
 A = 00
 Ch3

 A = 00
 Ch3
 A = 00
 Ch3
 A

各TG 1000 レシーバーは、それぞれのウェブページを持つウェブ サーバーを内蔵しています。

TG 1000 レシーバーの設定とモニターを行うためには、特別なソ フトウェアをインストールする必要はありません。必要なのは、ネッ トワーク接続環境とウェブブラウザを持つネットワーク互換のデバ イス (クライアント)です。すなわち、TG 1000 システムをPC、 Mac、タブレットPC、スマートフォンからコントロールすること ができます。

マイクロソフトのInternet Explorerを使う場合、バージョン8.0 以上であることを確認してください。

beyerdynamic Chameleonソフトウェア をスムーズに操作する には、TG 1000 レシーバーがネットワークに正しく接続されてい なければなりません。正しく接続されているときは、マニュアル モードまたはDHCPモード (初期値) で操作することができます。 マニュアルモードでは、接続されている各TG 1000 に対して、そ れぞれ異なるIPアドレスを手動で割り当てなければなりません。割 り当ては、サブメニュー "Function" -> "Network" から行います。 DHCPモードでは、IPアドレスがDHCPサーバーによって割り当 てられます。通常はDHCPサーバーが各ルーター内に組み込まれ ています。DHCPモードを使用しない場合、通常のイーサネットス イッチがネットワーキングを行います。この場合、レシーバーはマ ニュアルモードで操作されなければなりません。このネットワーク では、DHCPサーバーがないので、クライアントデバイスがスタ ティックなIPアドレスを受信しなければなりません。

beyerdynamic Chameleonソフトウェア をクライアントデバイ スと一緒に使うために、いずれのTG 1000 レシーバーともリンク することができます。これを行うには、レシーバーのIPアドレス(例: "192.168.1.101")を使用中のウェブブラウザに入力しなければな りません。レシーバーのIPアドレスは、サブメニュー "Function" -> "Network" に表示されています。どのレシーバーとも接続する ことができます。

ウェブページの送信に成功すると、beyerdynamic Chameleon ソフトウェアの基本画面がブラウザ画面に表示されます。ここには バーチャルのラック内に全てのレシーバーのパネル全体が表示され ます。表示されるレシーバーの順番は、レシーバーのサブメニュー "Function" -> "Network" で選択されるデバイスIDによって決ま ります。各レシーバーには異なるデバイスIDを割り当てなければな りません。レシーバーはデバイスIDの昇順に表示されます。 Frequency Scan



- ある周波数レンジ内での周波数選択は、周波数スキャンから行うことができます。この操作の中で周波数ごとに干渉があるかどうかを確認することができます。
- ●《Frequency Scan 》ボタンを選択します。
- 測定間隔を100kHz、200kHz、500kHzの中から選ぶことに より、スキャンのリゾリューションを選択します。
- ●開始周波数と停止周波数を入力します。この周波数の間でスキャンが行われます。
- スキャンを行うチャンネルを選択します。スキャンを行っているチャンネルは受信ができませんが、他のチャンネルはオーディオ信号を受信できます。画面内のチャンネル表示(CH1またはCH2)の手前に、デバイスIDが表示されています。
- ●《Start 》ボタンを選択します。
- スキャンニングメッセージが表示されます。



● スキャンによって、選択中の周波数レンジのRF信号が表示され ます。これらの信号はマイク信号か、あるいはDVB-Tチャンネ ルによって引き起こされる干渉です。

Clear Log

●《Clear Log》ボタンを選択すると、画面内のメッセージをクリ アーします。

Move to Bottom / Top

●《Move to Bottom》ボタンまたは《Move to Top》ボタンを選 択すると、ディスプレーの位置を変更することができます。

Walking Test



Walking Test機能は、ポータブルデバイスを使ってステージ上で受信に問題がある場所を見つけるときに使います。また、アンテナの問題を確認することもできます。

- **1.** 《Walking Test》 ボタンを選択します。
- 2. "Select Device" のしたチャンネルを選択します。
- 《Start》 ボタンを選択します。
   両方のアンテナ信号が表示されます。デッドポイントでは、信号の長さが短く表示されます。
- 中央にある帯はダイバシティ情報で、現在アクティブなアンテナが表示されます。

レシーバーの設定

 beyerdynamic Chameleonソフトウェア では、レシーバーの 設定を変えることができます。変更は、直接デバイスに反映さ れます。また、全てのステータスメッセージはレシーバー側に も表示されます。トランスミッターとレシーバーを再び同期す る必要があるとき、同期LEDが赤く点灯します。



- レシーバーのチャンネルウィンドウを選択して、チャンネルメ ニューに入ります。
- 以下の設定を行うことができます。

表示	内容
Name	アーティスト名を入力することができま
Name	す。
RF Power	トランスミッターのパワーを設定するこ
	とができます。
	トランスミッターにセットしている電池
Battery	に応じて、アルカリ乾電池またはニッケ
	ル水素電池を選択することができます。
Encryp	暗号化を有効にするか無効にするかを選
Енстур	択することができます。
	トランスミッターのパワーロック機能を
Power Lock	有効にするか無効にするかを選択するこ
	とができます。
Freq MHz	周波数を手動で入力することができます。
	レシーバーに保存されている選択中のグ
Group/Channel	ループ内のチャンネルを選択することが
	できます。
Di Gain	"Digital Gain"を設定ですることができ
	ます。
Roost	<b>"Analog Out"</b> のブーストを設定すること
DOOSE	ができます。

● 各設定の詳細については、12ページ「メニュー画面を使う」 をご覧ください。 ● レシーバーのフロントビューに戻るには、《BACK TO FRONT》 ボタンを選択します。



#### デバイス画面

レシーバーのデバイスIDをクリックすると、IPアドレス、デバイスID、レシーバーコントローラーとDSPのファームウェア、トランスミッターのファームウェア(トランスミッターがアクティブのとき)などの詳しいデバイス情報が表示されます。



#### ΧŦ

本取扱説明書に記載のbeyerdynamic Chameleonソフトウェ アの画面構成は、今後のバージョンアップ時に予告なく変更さ れる場合がございます。予めご了承ください。 アクセス制限

- 安全上の理由から、ソフトウェアに接続できるのは1クライア ントのみ、というアクセス制限があります。
- 他のクライアントがソフトウェアに接続しようとすると、エラー メッセージが表示されます。



#### RFレベルを表示する

トランスミッターの電源がオンのとき、両チャンネルのRFレベル を表示することができます。 以下の操作を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"RF-Meter"項目を選択 します。



3. ロータリースイッチ(10)を押して、RFメーター画面を表示 します。

両チャンネルのRFレベルがバー表示されます。



#### ネットワーク内の全レシーバーの周波数を設定する

Quick System Setup機能を使って、ネットワーク内の全チャン ネルの周波数を選択します。 以下の操作を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10) を回して、"Quick System Setup" 項目を表示します。



 ロータリースイッチ(10)を押して、"Quick System Setup" 画面の "Search Group"項目を表示します。 "Quick System Setup" 画面下部に、グループ内のチャンネル の数が表示されます。

	Quick System Setup				
•	Search Gro	oup: xx			
	xx Channels	(xxx - xxx MHz)			

- **4.** ロータリースイッチ (10) を回して、スキャンを開始するグルー プを選択します。
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、選択したグループを確定 します。

"Quick System Setup" 画面に "Search Channel" 項目が表示されます。

 ロータリースイッチ(10)を回して、選択したグループからス キャンを開始するチャンネルを選択します。
 "Quick System Setup" 画面下部に、選択したチャンネルの周 波数が表示されます。



- 7. ロータリースイッチ(10)回して、チャンネルを選択します。
- 8. ロータリースイッチ(10)を押して、選択したチャンネルを確 定します。

**"Quick System Setup"** 画面に **"Scanning"** が表示され、ス キャンを開始します。

ネットワーク内の全レシーバーに対して割り当てられるだけ のチャンネルが見つかると、スキャンが自動的に終了します。 チャンネルが足りない場合は、状況に応じたメッセージが表示 されます。

周波数がネットワーク内の全てのレシーバーに送られると、 **"Frequency setting sent"**が表示されます。 9. スキャン終了後、"Quick System Setup" 画面に "Set Frequency" 項目が表示されます。

#### Quick System Setup

#### • Set Frequency: No OR Yes absign new frequency OR Assign new frequency

**10.** ロータリースイッチ(10)を回して、見つかった周波数を割り 当てるかどうかを選択します。

選択肢:

"No"(チャンネルの既存の周波数を維持します)

"Yes"(チャンネルの既存の周波数が上書きされます)

11. ロータリースイッチ(10)を押して、周波数を確定します。

#### メモ

f

- いかなる場合でも、"Quick System Setup"機能をスタートした1台目のレシーバーには見つかった周波数が割り当てられます。
- "Quick System Setup" 機能を実行した後は、再度トランスミッターを同期してください。(→ 25ページ「同期」)

#### 出荷時の設定に戻す

レシーバーのバックアップメモリーに保存されている各種設定情報 を、工場出荷時の設定に戻すことができます。 以下の操作を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Factory Reset"項目を 選択します。

<ul> <li>▲ Quick System Setup</li> <li>● Factory Reset</li> </ul>	f
▼ Help	

ロータリースイッチ(10)を押して、"Restore Defaults" 画 面を表示します。

• Restore Defaults: Yes OR No

- 4. ロータリースイッチ(10)を回して "Yes" を選択します。
- 5. ロータリースイッチ(10)を押して、場出荷時の設定に戻しま す。

**22** beyerdynamic TG 1000

f

#### サポート情報を表示する

本機のサポート情報を表示するには、以下の操作を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニューを表示します。
- 2. ロータリースイッチ(10)を回して、"Help"項目を選択します。



**3.** ロータリースイッチ(10)を押して、"SUPPORT" 画面を表示 します。

SUPPORT	
and software updates	
www.beyerdynamic.com/	
tg1000/help	

国別のテクニカルサービスの連絡先やTG 1000 ヘルプセン ターのウェブアドレスなどのサポート情報が表示されます。 スマートフォンをお持ちの場合は、**"SUPPORT"** 画面右側の QRコードをスキャンすることによって、詳しい情報を得るこ とができます。

ファームウェアバージョンを表示する

本機のファームウェアのバージョンを表示して確認することができ ます。

以下の操作を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- ロータリースイッチ(10)を回して、"Version Info" 項目を選 択します。

<ul><li>▲ Help</li><li>● Version Info</li></ul>	f
▼ Tx Upgrader	-

ロータリースイッチ(10)を押して、ファームウェアバージョン画面を表示します。
 レシーバーとトランスミッターの現在のファームウェアバー

ジョンが表示されます。

DSP 0.25 Tx: Ch.1: 0.10

MCU: Rev-00.2.38

Tx: Ch.2: 0.0

#### メモ

必ずトランスミッターの電源を入れた状態で行ってください。

レシーバーのファームウェアをアップデートする



TG 1000 Bootloader					
For Upgrade	con	nect	to		
IP-Adresse:	0.	0.	0.	0.	
MAC: 00:04:A3:3C:DB:A4				00.01.5	

本機は、ネットワーク経由の「ブートローダー」によって、レシー バーのファームウェアをアップデートすることができます。 以下のメニュー操作を行います。

レシーバーの最新のファームウェアを、以下のサイトからダウンロードします。

www.beyerdynamic.com/tg1000/help

- カテゴリー 5ケーブルを使って、レシーバーをイーサネット端子(19)経由でパソコンに接続します。
- 「ブートローダーモード」にするには、ロータリースイッチ(10) を押しながら、レシーバーの電源をオンにします。
- ファンクションボタン(12)を押すと、ネットワーク設定の確認/変更を行うことができます。(→ 16ページ「レシーバーをネットワークに接続する」)
- レシーバーに表示されているIPアドレスをインターネットブラ ウザに入力します。
- インターネットブラウザ内にページが開き、新しいファームウェ アをファイルとしてレシーバーにロードすることができます。
- "Select file" ボタンを選択し、開いたウィンドウからファイル を選択します。
- "Submit" ボタンを選択して確定します。
- レシーバーのディスプレー(8)に送信状況が表示されます。
   レシーバーへの送信が完了すると、パソコン上にメッセージ
   《Upgrade successful》が表示されます。
- レシーバーの電源をオフにした後にオンにすると、ファームウェアのアップグレードが始まります。
- レシーバーのディスプレー(8)に "Rx Firmware Upgrading" が表示されます。
- ディスプレーが "Upgrade successful" に変わったら、再度、 電源をオフにしてからオンにするとファームウェアのアップ デートは完了となります。

f

#### トランスミッターのファームウェアをアップデートする

トランスミッターのファームウェアアップデートは、以下の操作を 行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- **2.** ロータリースイッチ(10)を回して、"**Tx Upgrader**"項目を表示します。
  - ▲ Version Info
  - Tx Upgrader
  - ▼ Region Code: A
- 3. ロータリースイッチ (10) を押して、トランスミッターのファー ムウェアアップデート画面を表示します。



 ロータリースイッチ (10) を押して、トランスミッターのファームウェアアップデートを開始します。 ディスプレー(8)に表示される指示にしたがい、確定が必要なときにはロータリースイッチ (10)を押します。

#### リージョンコードを表示する

リージョンコードを表示するには、以下の操作を行います。

- ファンクションボタン(12)を押して、ディスプレー(8)に ファンクションメニュー画面を表示します。
- **2.** ロータリースイッチ(10)を回して、"Region Code: A" 項目 を表示します。
- ▲ Tx Upgrader
   Region Code: A
- 3. ロータリースイッチ(10)を押して、現在設定されているリー ジョンコードを表示します。

#### メモ

日本国内版は、RegionEのみ表示されます。 Region Code: "**E**" モニタリング





- ヘッドホンを使ってチャンネル1または2をモニターすることができます。
- ヘッドホンをレシーバーのヘッドホン端子(14)に接続します。
- チャンネル1または2をモニターするには、該当する モニターボ タン (13) を押します。
- モニター機能が動作中、該当モニターボタンが赤く点灯します。
- ヘッドホンメニューで、ロータリースイッチ(10)を使ってボ リュームを-33 ~+36dBの範囲(3dBステップ)で調節でき ます。

#### 注意

ボリュームを上げすぎないでください。聴覚障害を起こす可能 性があります。

- ボリューム値がディスプレー(8)に表示されます。
- ●しばらくすると、ディスプレー(8)がホーム画面に戻ります。
   ホーム画面に戻ってもモニター機能およびヘッドホン出力は有効です。
- モニター機能を止めるには、動作中のモニターボタン(13)を 再度押します。
   ディスプレー(8)に "OFF" が表示され、モニター機能および ヘッドホン出力が停止します。

#### 注意

f

- 大きな音量で長時間聞き続けると、聴覚に障害を引き起こす恐れがあります。聴覚障害は回復不可能です。使用前に必ずボリュームを下げてください。
- ボリュームが大きすぎないよう常に気を付けてください。
- ボリュームを大きくして聴く場合は時間を短くしてください。

14/01/21 14:11



4

5 5

8





- ●レシーバーは、チャンネルの周波数やその他の設定(暗号化、 パワーロックなど)を、赤外線インタフェース経由でトランス ミッターに送信することができます。
- 設定をトランスミッターに送信するためには、レシーバーのチャンネル1(Q1)またはチャンネル2(Q2)の同期ボタン(5)を押します。
- 各トランスミッターの電池ケース部内に赤外線インタフェース (4、10)があります。
- 同期ボタン(5)が赤く点灯しているとき、電源スイッチをオンにしたトランスミッターの電池ケース部のカバーを開き、中の赤外線インタフェース(ハンドヘルドトランスミッターは(5)、ベルトパックトランスミッターは(10)をレシーバーの赤外線インタフェース(4)の前に近づけます。
- ディスプレー(8)に "SYNC successful" が表示されたら、 同期が完了です。周波数、その他の設定がトランスミッターに 正しく送信されたことになります。

同じチャンネル上の2台のトランスミッターを同期する方法

- ハンドヘルドトランスミッターの電源ボタン(7)またはベルトパックトランスミッターの電源ボタン(3)を約8秒間押し続けて、"RF off"モードにします。この状態では、メインのトランスミッターが動作中であっても、同じチャンネル上のスペアのトランスミッターを同期することができます(同期操作中であっても、オーディオの送信は行われます)。
- 上記の手順にしたがってスペアのトランスミッターを同期します。
- "RF off" モードを終了するには、トランスミッターの電源をオ フにしてから再度オンにします。

#### メモ

スペアのトランスミッターの電源をオフにしてから再度オンに する前に、メインのトランスミッターの電源をオフにしてくだ さい。

オンのままだと、2台のトランスミッターが同時に同じ周波数で 動作することによってチャンネルが干渉する可能性があります。

マルチチャンネルの操作(複数台のTG 1000 レシーバーをカスケードして使用)



- レシーバーには、アクティブタイプのアンテナスプリッターが 内蔵されています。
- 2本のアンテナを使ってマルチチャンネル操作を行う場合、最 大8台のレシーバー(16チャンネル)を接続することができ ます。
- アンテナを1台目のレシーバーのアンテナ入力(17)に接続し ます。
- 2台目のレシーバーのアンテナ入力(17)を1台目のレシーバーのアンテナ出力(17)に接続し、3台目のレシーバーのアンテナ入力(18)を2台目のレシーバーのアンテナ出力(18)に接続します。以下、同様に接続します。
- WA-CKL接続ケーブル(別売)を使ってください。
- アンテナ信号が供給されるように、全てのレシーバーの電源を オンにしてください。
- ◆ 大規模なマルチチャンネルシステムを構築する場合、別売アク セサリーのWA-AS6 6系統アンテナスプリッターを使用するこ とをお勧めします。

#### WA-AS6 6系統アンテナスプリッター(別売アクセサリー)

#### コントロールとインジケーター

フロントパネル



リアパネル



- 1 19インチラック取り付け用穴
- 2 アンテナ取り付け用入力端子(BNC)
- 3 DC電圧ステータスLED
- 4 電源LED
- 5 DC電源接続端子
- 6 アンテナ入力A、B (BNC)
- 7 アンテナ出力A、B (BNC)
- 8 アンテナ増幅器へのDC電圧供給のオン/オフボタン

一般情報

- WA-AS6 6系統アンテナスプリッターは、470 ~ 790MHzの周波数レンジで動作する6ウェイのワイドバンド型アンテナスプリッター です。
- WA-AS6 6系統アンテナスプリッターが1台あれば、(カスケード接続された) 最大72台の TG 1000 ダイバシティレシーバーを2本のア ンテナで動作させることができます。
- ダイバシティ操作用として、WA-AS6 6系統アンテナスプリッターは2つのアンテナ入力を装備し、それぞれが6系統のアンテナ出力に分 配されます。直接あるいはリモート接続されているアンテナを使って操作が可能です。
- 両アンテナ入力は、アクティブなアンテナまたはアンテナ増幅器を動作させるための電圧を供給します。
- DC電圧ステータスLED( 3 )は接続されているアンテナ増幅器に電源が供給されているときに点灯します。

#### 取り付けとインストール

- WA-AS6 6系統アンテナスプリッター には、19インチラックへ組み込むための 19インチラック取り付け用穴 (1 )がパネルの左右に用 意されています。
- WA-ATD指向性アンテナ、またはWA-ATO全方向性アンテナを、アンテナ入力AおよびB( 6)に接続します。
- BNCパッチケーブル(WA-CKL)を使って、アンテナスプリッターのアンテナ出力をレシーバーのアンテナ入力に接続します。
- 付属のパワーサプライユニットを電源コンセントとDC電源接続端子(5)に接続します。アンテナスプリッターには電源スイッチがなく、 電源に接続された時点で動作可能になります。電源LED(4)が点灯します。
- WA-AMPアンテナ増幅器を使う場合、アンテナスプリッターのリアパネルにある、アンテナ増幅器へのDC電圧供給の オン/オフボタン(8) をオンにしてください。DC電圧ステータスLED(3)が点灯します。

#### 注意

オン/オフボタン(8)を押すと、DC電圧供給がオフになります。

#### メモ

- アンテナ接続端子には、DC8Vの電圧がかかっています。短絡を避けるために、ラックのハウジングに触れないようにしてください。
- beyerdynamic社のWA-ACアンテナケーブルをお使いください。ケーブルが長いほど、高域周波数信号の減衰が大きくなります。
- リモートアンテナの接続には、beyerdynamic社のWA-ACアンテナケーブルをお使いください。ケーブルが長いほど、RF信号のロスが大きくなります。
- アンテナおよびアンテナスプリッターは、必ず純正のオプション品(WA-ATD、WA-ATO、WA-AS6)ご使用ください。
- 複数台のTG 1000 ダイバシティレシーバーをカスケード接続すると、アンテナスプリッターを使って大規模なマルチチャンネルシステム を作ることができます。



各部の名称



- 1 マイクカプセル取り付け用ネジ
- 2 電池ケース部カバー
- 3 アンテナ
- 4 赤外線インタフェース
- 5 電池ケース部
- 6 ディスプレー
- 7 電源ボタン

28 beyerdynamic TG 1000

14/01/21 14:11

## マイクカプセルの取り付け方法

TG 1000 ハンドヘルドトランスミッター用に、さまざまなコンデ ンサーあるいはダイナミックタイプのマイクカプセルが用意されて います。詳細は、38ページ「第7章 別売アクセサリー」 をご 覧ください。

- ハンドヘルドトランスミッターのマイクカプセル取り付け用ネジ(1)に希望のマイクカプセルを載せ、時計回りに締め付けます。
- マイクカプセルを交換する場合、マイクカプセルを反時計回り
   に回してトランスミッターから外します。
- マイクカプセルを交換するとき、事前にハンドヘルドトランス ミッターの電源をオフにしてください。

TG V50w



単一指向性ダイナミックマイクカプセルで、ボーカルに最適です。 ピックアップエリアが非常に広く、フィードバックに強いです。

TG V56w



単一指向性コンデンサーマイクカプセルで、ソロシンガーや会議、 スピーチなどの用途に最適です。

トレブルを少しブーストしていますので、フィードバックに強いで す。

TG V70w

F	
( itopor	
1	

超指向性ダイナミックマイクカプセルで、ボーカルに最適です。 パワフルなサウンド。 フィードバックに非常に強いです。 TG V90w



単一指向性ダイナミックリボンマイクカプセルで、ボーカルに最適 です。

クリアーでナチュラルなサウンド。 フィードバックに強いです。

TG V96w



単一指向性コンデンサーマイクカプセルで、ボーカルに最適です。 色づけのないサウンド。

トレブルを少しブーストしたオープンで控えめなサウンドが特徴です。

フィードバックに強いです。

#### 電池をセットする



- 1. 電池ケース部カバー(2)を反時計回りに回します。
- 2. 電池ケース部カバー(2)をアンテナ側にスライドします。
- 3. 電池ケース部(5)の表示に合わせて、単3形電池(アルカリ 乾電池またはニッケル水素電池)2本をセットします。

5

- **4.** 電池ケース部カバー(2)を上側スライドし、時計回りに回し て締めます。
- 現在の電池の状況がハンドヘルドトランスミッターのディス プレー(6)およびレシーバーのディスプレー(8)に表示さ れます。

#### メモ

- 同期を行う前に、メニュー画面の"Battery"項目で使用する電 池の種類が正しく設定されていることを確認してください。(→ 14ページ「電池の種類の設定(Battery)」)
- 電池残量が少なくなると、ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー(6)に空の電池マークが点滅します。この場合は、 直ちに新しい電池と交換してください。

## ハンドヘルドトランスミッターの操作方法







- ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー(6)にホーム 画面が表示されるまで電源ボタン(7)を押し続けて、ハンド ヘルドトランスミッターの電源をオンにします。
- ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー(6)に電池残量と名前(レシーバーのディスプレー(8)の1行目に入力した名前)が表示されます。
- 2行目に、チャンネルと周波数グループまたは周波数が設定に応じて表示されます。
   ハンドヘルドトランスミッターの電源ボタン(7)を押すと、
   2行目に以下の詳細情報が順次表示されます。

詳細情報:RFパワー、電池残量、マイクカプセル、暗号化ステー タス、パワーロック機能の設定状態

- 電源がオンのときに電源ボタン(7)を押したままにすると、リージョンコードとバージョン番号が表示されます。
- ●トランスミッターとレシーバーが同じ周波数で動作していることを確認してください。
- ハンドヘルドトランスミッターは、広いダイナミックレンジを 持っています。そのため、レベルを設定するスイッチがありま せん。低い信号に対しては、レシーバーの"Digital Gain"を上 げることによって、オーディオレベルを上げることができます。 詳しくは、13ページ「デジタルゲインを設定する(Digital Gain)」をご覧ください。
- トランスミッターの電源をオフにするには、ハンドヘルドトランスミッターのディスプレー(6)に "Off" が表示されるまで、 電源ボタン(7)を押し続けます。
- パワーロック機能が有効な場合、ハンドヘルドトランスミッターの電源をオフにすることができません。この場合、ディスプレーに
   "Power Locked"が表示されるまで、電源ボタン(7)を押し続け、ボタンを放して、ディスプレーに
   "Off"が表示されるまで、再度ボタンを押し続けます。以上の操作によって、ハンドヘルドトランスミッターの電源をオフにすることができます。

同期/受信した周波数をトランスミッターに 送信する方法





- 周波数その他のレシーバー設定をトランスミッターに送信する には、レシーバーのチャンネル1(Q1)あるいはチャンネル2 (Q2)の同期ボタン(5)を押します。
- トランスミッターの電池ケース部の中に、赤外線インタフェース(4)があります。
- 同期中、電源の入っているトランスミッターの電池ケース部を 開けて、赤外線インタフェース(4)を直接レシーバーの赤外 線インタフェース(4)の正面に向けます。
- 同期が終了すると、ディスプレー(8)に "SYNC successful" が表示されます。

## メンテナンス

- ハンドヘルドトランスミッターを湿気や衝撃から守ってください。また、トランスミッターを落とさないでください。
- 金属表面を拭く場合は、変性アルコールまたはアルコールを含 ませた柔らかい布で拭いてください。
- マイクのサウンドが鈍ってきた場合、以下の手順にしたがって 直ちにポップシールドを掃除してください。
  - マイクグリルを反時計回りに回します。



TG V90wの場合は、小さなネジを取り外してから マイクグ リル上部を回します。



[TG V90wの場合]

TG V96wの場合は、 マイクグリルを取り外してからワイ ヤーメッシュ・ポップシールドを取り外して掃除してくださ い。



スポンジのポップシールドを取り出します。必要であればピンセットを使い、きれいな流水で洗います。



- 必要であれば、中性洗剤など刺激の弱い洗剤をご使用ください。
- 洗浄後、ヘアドライヤーを使って乾かすか、あるいは自然乾燥させます。
- マイクグリルの内部と外部を洗います。軽く濡らした布を使うか、あるいは柔らかいブラシを使って流水の下で洗います。
   洗浄後、自然乾燥させます。
- マイクグリルは、食器洗い機で洗わないでください。
- 乾いたポップシールドをマイクグリルの内部に入れ、マイク グリルを時計回りに回して元に戻します。

各部の名称





- 1 4ピン ミニXLRコネクター (マイク/楽器接続用端子)
- 2 AFピークインジケーター
- 3 電源ボタン
- 4 電源ONオンインジケーター
- 5 アンテナコネクター (SMAソケット)
- 6 ディスプレー
- 7 電池ケース部カバー
- 8 ゲインスイッチ (OdB / -12dB)
- 9 電池ケース部
- 10 赤外線インタフェース
- 11 ベルトクリップ

32 beyerdynamic TG 1000

14/01/21 14:11

#### 電池をセットする



- 1. 電池ケース部カバー(7)を左右のくぼみの部分を持ちます。
- 2. 電池ケース部カバー(7)を下側に開きます。
- 電池ケース部(5)の表示に合わせて、単3形電池(アルカリ 乾電池またはニッケル水素電池)2本をセットします。
- 電池ケース部カバー(7)を上に上げて閉めます。
   マグネットの働きによってキッチリと閉じることができます。
- 5. 現在の電池の状況がトランスミッターのディスプレー(6)お よびレシーバーのディスプレー(8)に表示されます。

#### メモ

 同期を行う前に、メニュー画面の"Battery"項目で使用する電池の種類が正しく設定されていることを確認してください。(→ 14ページ「電池の種類の設定(Battery)」)

#### ベルトパックトランスミッターの操作方法



- マイクまたはWA-CGI楽器ケーブルを 4ピン ミニXLRコネク ター(1 )に接続します。
- SMAコネクターの付いた付属のアンテナを、 アンテナコネク ター(5 )に接続します。
- ディスプレー(6)にホーム画面が表示されるまで電源ボタン (3)を押し続けて、ベルトパックトランスミッターの電源をオンにします。電源ONインジケーター(4)が緑色に点灯します。
- ディスプレー(6)に電池残量と名前(レシーバーのディスプレー (8)の1行目に入力した名前)が表示されます。
- 2行目に、チャンネルと周波数グループまたは周波数が設定に応じて表示されます。電源ボタン(3)を短く押していくと、2行目に以下の詳細情報が順次表示されます。

詳細情報:RFパワー、電池残量、マイクカプセル、暗号化ステー タス、パワーロック機能の設定状態

- 電源がオンのときに電源ボタン(3)を押したままにすると、リージョンコードとバージョン番号が表示されます。
- ●トランスミッターとレシーバーが同じ周波数で動作していることを確認してください。
- トランスミッターの電源をオフにするには、ディスプレー(6)
   に "Off" が表示されるまで、電源ボタン(3)を押し続けます。
- パワーロック機能が有効な場合、ベルトパックトランスミッターの電源をオフにすることができません。この場合、ディスプレー(6)に "Power Locked"が表示されるまで、電源ボタン(3)を押し続け、ボタンを放して、ディスプレー(6)に "Off"が表示されるまで、再度ボタンを押し続けます。以上の操作によって、ベルトパックトランスミッターの電源をオフにすることができます。

受信機で設定した周波数やその他のセッティングをトランスミッターに送信する方法





- 周波数その他の設定をレシーバーからトランスミッターに送信 するには、レシーバーのチャンネル1(Q1)あるいはチャンネ ル(Q2)の同期ボタン(5)を押します。
- ●トランスミッターの電池ケース部(9)の中に、赤外線インタフェース(10)があります。
- 同期中、電源の入っているトランスミッターの電池ケース部カバー(7)を開けて、赤外線インタフェース(10)を直接レシーバーの赤外線インタフェース(4)の正面に向けます。
- 同期が終了すると、"SYNC successful" が表示されます。

ゲインスイッチの使い方



- ベルトパックトランスミッターには、-12dBのアッテネーター 機能が付いていますので、楽器用ケーブルを使ってレベルの高 い信号ソース(アクティブピックアップの付いたエレキギター やエレキベースなど)を接続することができます。この場合、 ゲインスイッチ(8)を「-12dB」に設定します。 これらの信号を同じレベルでレシーバーに出力するには、メ ニュー画面の"Analog Out"項目を"+12dB"に設定してくだ さい。詳しくは、14ページ「アナログ出力レベルを設定する (Analog Out)」をご覧ください。
- エレクトレットマイクをトランスミッターのピン ミニXLRコネ クター(1)に接続する場合、ゲインスイッチ(8)を「OdB」 に設定する必要があります。
   非常に低い信号でも歪みが起きる場合、感度の低いマイクを使 う必要があります。なぜなら、マイク内部ですでに歪みが起き ているからです。
- ●レベルの低い信号に対しては、レシーバーの"Digital Gain"を 上げることによって、オーディオレベルを上げることができま す。詳しくは、13ページ「デジタルゲインを設定する(Digital Gain)」をご覧ください。

## ベルトクリップの取り付け方法



- ベルトパックトランスミッターには、トランスミッターを服、 ベルト、ギターストラップなどに装着するためのベルトクリッ プ(11)が2つ付属しています。
- ベルトクリップ(11)を持ち上げることにより、ベルトパック トランスミッターから取り外すことができます。
- ベルトクリップ(11)は、垂直方向または水平方向に取り付けることができます。
   垂直方向:トランスミッターを服やベルトに取り付ける場合水平方向:トランスミッターをギターストラップに取り付ける場合

# 第5章 全てのトランスミッターに共通の注意

- ●トランスミッターの電池残量を確認して、必要に応じて交換するか充電してください。新品のアルカリ乾電池またはニッケル水素電池をお使いください。
- 電池を交換する前に、トランスミッターの電源を切ってください。
- ●トランスミッターを数週間あるいは数ヶ月使用しない場合、電池を取り出してください。長期間電池を使用しないと、液が漏れて部品を腐食させることがあります。この場合は、修理はできません。全ての保証は無効になります。電池に「leak proof」と表示してあっても、液漏れしない保証はありません。
- ●時々、アルコールを含ませた柔らかい布を使って、電池の接点 を清掃することをお勧めします。
- 使用済みの電池は、各自治体で決められたルールにしたがって 廃棄してください。
- ●本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。

第6章 オーディオレベルについて

TG 1000 の開発において、オーディオを忠実に送信し、シンプル に取り扱えるシステムを作ることを目標にしました。 実際のアプリケーションにおいて広いダイナミックレンジをカバー するために、オーディオレベルを調整する方法がいくつかあります。

## トランスミッターのレベル設定

TG 1000 システムは、ベルトパックトランスミッターの感度ス イッチ以外にはトランスミッターのレベル設定がありません。その 代わり、非常に広いダイナミックレンジで、アナログ・デジタル変 換およびコーデックが動作します。必要であれば、あるいは希望が あれば、トランスミッターを同期したり新しい設定を行うことなく、 レシーバーのボリュームを調節することができます。

## ベルトパックトランスミッターのゲインス イッチについて

このスイッチを使って-12dBのパッシブが可能です。非常に高い レベルの信号ソース(アクティブピックアップ付きのエレキギター やエレキベースなど)を接続するときに、このスイッチが役立ちま す。

エレクトレットマイク接続時には、ゲインスイッチ(8)を「OdB」 に設定します。非常に高いレベルの信号のときに歪みが起きる場合 は、感度の低いマイクを使う必要があります。というのは、この場合、 マイク自体の内部で歪みが起きているからです。エレクトレットマ イクの出力レベルは、ベルトパックトランスミッターから供給され る電圧以上にはなりません。そして、このレベルは0dBポジション であっても、滑らかに処理されます。-12dBのアッテネーター は レベルを低減しますが、歪みを回避することはできません。

## レシーバーのレベル設定

レシーバーには、出力レベルに影響を与える機能が2つあります。

#### デジタルゲイン

このパラメーターで、レベルをデジタル的に高めることができます。 ゲインは0dB ~+30dB(3dBステップ)の範囲で設定できます。 想定以上のレベルの信号を入力したとき、リミッターが働いて、設 定したゲインが一時的に下がります。したがって、D/Aコンバーター のオーバーロードおよびそれに伴う聴感上の歪みを避けることがで きます。

#### アナログ出力

このパラメーターで、出力段のゲインをアナログ的に変更できます。 0dBと+12dBの2つの設定があります。+12dBに設定すると、 ダイナミックレンジを犠牲にすることなく出力レベルが12dB上が ります。アナログ出力端子に接続されるデバイスが高い入力レベル を必要とする場合(ミキサーのライン入力など)や、ベルトパック トランスミッターの-12dBのアッテネーター を使うことによるレ ベルロスを補う場合、+12dBに設定することをお勧めします。

#### システム全体による増幅度

システム全体としてのゲインは、3つの調整値(ゲインスイッチ、 デジタルゲイン、アナログ出力)を足し合わせることによって簡単 に計算できます。

これら3つの値が全て0dBに設定されている場合、出力レベルは入 カレベルと同じになります。例えば、楽器ケーブルを接続したベル トパックトランスミッターを使う場合、TG 1000 は「ワイヤレス ケーブル」のように働きます。ディストーションの掛かったギター サウンドは、「実際の=リアルな」ケーブルを使った場合と同じです。 ハンドヘルドトランスミッターを使う場合、出力レベルは同等のワ イヤードマイクの出力レベルと同じです(ただし、V90w リボン マイクカプセルの場合を除きます。このマイクカプセルでは、S/N 比をより良くするためにゲインがマイクカプセル自体の中で与えら れています)。

ベルトパックトランスミッター側で-12dBのアッテネーター を必 要とするような音の大きい楽器の場合、"Analog Out" パラメー ターを+12dBに設定することにより、出力レベルを入力レベルに 合わせることができます。こうして、「ワイヤレス・ケーブル」と いう目的は保たれます。

ブロックダイヤグラム

ベルトパックトランスミッターのオーディオレベル



ハンドヘルドトランスミッターのオーディオレベル



#### レシーバーのオーディオレベル



第7章 別売アクセサリー

## デジタルUHFダイバシティレシーバー用

アンテナスプリッター

WA-AS6	:6系統アンテナスプリッター(BNC接続、DC8Vをアンテナに供給、470 - 790MHz)
アンテナ	
WA-ATD	:UHF指向性アンテナ(BNC接続、470 - 790MHz)
WA-ATO	:UHF無指向性アンテナ(BNC接続、470 - 790MHz)
ケーブル	
WA-AC5	:50Ω同軸ケーブル・10m(BNCコネクター付き)
WA-AC10	:50Ω同軸ケーブル・10m(BNCコネクター付き)
WA-AC25	:50Ω同軸ケーブル・10m(BNCコネクター付き)

WA-CKF :フロントアンテナ取り付け用BNCケーブル(TG 1000シリーズ用)

WA-CKL : BNCカスケード接続用延長ケーブル(TG 1000シリーズ用)

WA-CGI :ミニXLR4pin - TS標準ジャック変換ケーブル(TG 1000シリーズ用)

アンプ

WA-AMP : アンテナ用アンプユニット (アンプ出力切り換え:5/10/15/20dB、470 - 790MHz)

## デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター用

#### 交換用マイクカプセル

TG-V50w	: TG	1000用ダイナミック型マイクカプセル
TG-V56w	: TG	1000用コンデンサー型マイクカプセル
TG-V70w	: TG	1000用ダイナミック型マイクカプセル
TG-V90w	: TG	1000用ダイナミック(リボン)型マイクカプセル
TG-V96w	: TG	1000用コンデンサー型マイクカプセル

## デジタルUHFベルトパックトランスミッター用

#### 接続可能マイク

TG	L55c		:無指向性コンデンサー型アナウンス用ラベリアマイク(黒)
ΤG	L55c	tan	:無指向性コンデンサー型アナウンス用ラベリアマイク(肌色)
TG	H54c		:単一指向性(カーディオイド)コンデンサー型ヘッドセットマイク(黒)
TG	H54c	tan	:単一指向性(カーディオイド)コンデンサー型ヘッドセットマイク(肌色)
TG	H55c		:無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク(黒)
TG	H55c	tan	:無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク(肌色)
TG	H74c		:超単一指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク(黒)
TG	H74c	tan	:超単一指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク(肌色)
TG	H75c		:無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク(黒)
ΤG	H75c	tan	:無指向性コンデンサー型ヘッドセットマイク(肌色)

第8章 仕様

## デジタルUHFダイバシティレシーバー

#### 動作原理

UHF帯 デジタル変調 トゥルーダイバーシティ方式 周波数帯  $470 \text{MHz} \sim 714 \text{MHz}$  (Region E:日本仕様) 周波数特性  $20 Hz \sim 20 kHz$ ダイナミクスレンジ 116dB / 128dB (TG1000BT +12dB Pad : ON) 最大出力レベル(XLR) +18dBu(0~30dBのデジタルゲイン調節、+12dBのアナ ログブースト機能あり) ヘッドホン出力 切り換え式、ボリューム調節付き 遅延 2.1ms(送信機から受信機までのシステム全体の数値) オーディオコーデックおよび暗号化 トリプルプレイコーディック (beyerdynamic独自の16ビットパターンによる暗号化) ディスプレー 有機EL 雷源 AC  $100 \sim 240V$ 消費電力 12W 重量 3.2kg 外形寸法 420 x 43 x 242mm (幅 x 高さ x 奥行き) アンテナ接続端子 BNC入力 x2、BNC出力 x2 動作温度

0∼55°C

#### デジタルUHFハンドヘルドトランスミッター

 空中線電力(送信出力) 5mW (RF Power Standard) / 22mW (RF Power High) ディスプレー 有機EL 最大送信可能距離 最大300m (最適条件下) 電源 単3形電池2本 電池持続時間 約8時間 (ニッケル水素電池使用時、RF Power Standard) 重量 152g (電池およびマイクカプセルを除く) 外形寸法

#### デジタルUHFベルトパックトランスミッター

200 x φ36mm (全長 x 直径)

動作原理 UHF帯 デジタル変調 周波数帯  $470 \text{MHz} \sim 714 \text{MHz}$  (Region E:日本仕様) 周波数特性  $20 \text{Hz} \sim 20 \text{kHz}$ ダイナミクスレンジ 116dB (A-weighted) / 128dB (+12dB Pad: ON) オーディオコーデックおよび暗号化 トリプルプレイコーディック (beyerdynamic独自の16ビットパターンによる暗号化) 空中線電力(送信出力) 8mW (RF Power Standard) / 40mW (RF Power High) ディスプレー 有機EL 最大送信可能距離 最大300m(最適条件下) アナログ入力端子 4ピン ミニXLRコネクター (1:GND、2:In-1、3:In-2、4:+5V) 最大入力レベル +18dBu 電源 単3形電池2本 電池持続時間 約8時間(ニッケル水素電池使用時、RF Power Standard) 重量 102g(電池を除く) 外形寸法 59 x 94 x 26mm (幅 x 高さ x 奥行き) アンテナ端子 SMAコネクター

## 第8章 仕様

## WA-AS6 6系統アンテナスプリッター

対応周波数帯

470MHz ~ 790MHz 接続端子 BNCメス

## 重量

1.12kg

外形寸法

484 x 44 x 90mm (幅 x 高さ x 奥行き)

## WA-AMP アンテナ用アンプユニット

対応周波数帯 470MHz ~ 790MHz 接続端子 BNC アンプ増幅値 5/10/15/20dB (切り換え式) 供給電圧 8V 消費電力 70mA 重量 40g 外形寸法

76 x 25 x 19mm (幅 x 高さ x 奥行き)

# Memo

Memo

42 beyerdynamic TG 1000

14/01/21 14:11

Memo

## この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

オーディオブレインズまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・ 弊社休業日を除く10:00 ~ 18:00 です。

**株式会社 オーディオブレインズ** 〒224-0044神奈川県横浜市都筑区川向町797-1 TEL: 045-472-6765 FAX: 045-472-6875

Printed in Japan